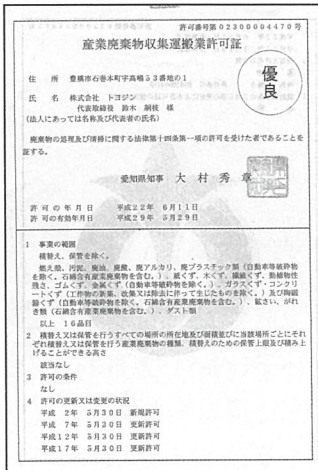


企業訪問 循環型最前線レポート

(株)トヨジン



ロゴマーク



人の和
物の環
地域の輪

コツコツと、すこしづつ

未来を育むリサイクル
処理施設

(株)トヨジン

豊橋駅から車で10分ほど走り、緑豊かな風景の中、(株)トヨジンの廃プラスチックリサイクル処理施設が見えてきます。

処理施設の外観はもちろん、施設内も駐車場も掃除が行き届き、とてもクリーンな印象を受けました。



外観も施設内もクリーン

代表取締役専務の長崎正敏氏は「わが社は人の和・物の環・地域の輪をスローガンに事業に取り組んでいます。ロゴマークは地域の皆さんから公募したもので、名刺はもちろん、会社の車両にも入っています。この処理施設は、昨年の6月7日に許可を得て、稼働し始めました。特徴などはスタッフからお話します。」と日頃から人材育成に取り組み、スタッフ一人ひとりのスキルアップを図る社風を垣間見ました。



リサイクル処理施設

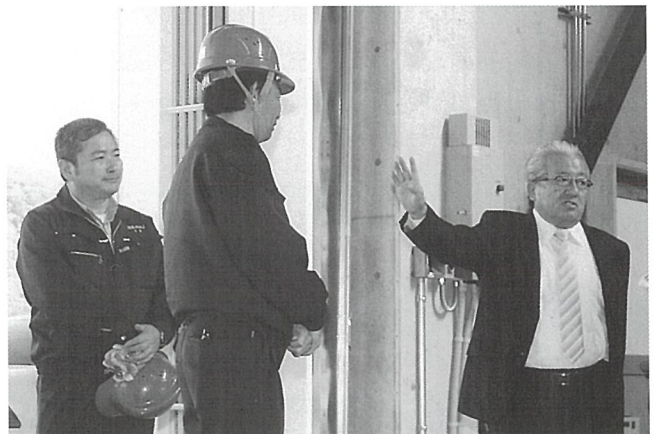
株式会社トヨジン

■代表者/鈴木 絹枝

■所在地/愛知県豊橋市石巻本町高嶋53-1

TEL:(0532) 88-0534 FAX:(0532) 88-0098

<http://www9.ocn.ne.jp>



処理施設の夢を語る、河澄工場長、藤下営業課長、長崎専務(左より)

「このリサイクル施設では、廃プラスチックから次世代型の廃プラスチック燃料、フラフ化廃棄プラスチック燃料を作っています。作業の工程は、契約先から搬入された廃棄物を手選別し、8品目に分別後、品目別に保管ピットに入れます。搬入先は契約している会社で、搬入時にもその都度確認させていただきます。“混ざればゴミ、分ければ資源”ですから、人の目と手で分別しています。その後1品目ごとに破碎機に投入します。破碎は、荒く破碎する二軸破碎機とさらに細かく破碎する一軸破碎機です。この破碎機は、横出しローラータイプによりメンテナンス時間が短縮される、特許取得の最新型です。

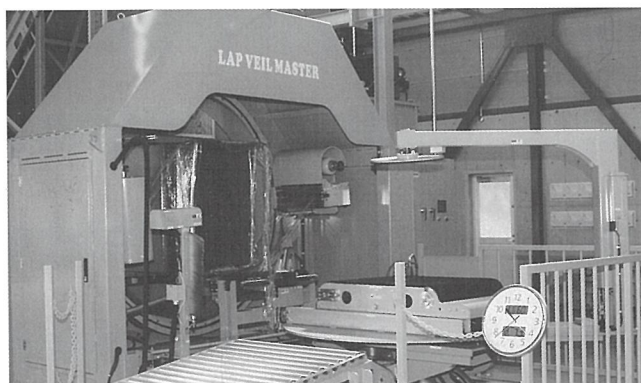


お客様に自信を持って使っていただけるリサイクル品を作ることでした。検討の末、再生燃料として付加価値の高いフラフ化廃棄プラスチック燃料に加工し、主に製紙会社へ出荷することになりました。フラフ化廃棄プラスチック燃料は、溶解や石炭注入などの必要がなく、燃料化工程で省エネが図れる次世代型の方式です。また、利用側も火力の調整もしやすいという利点があります。

処理施設は、地域の環境やスタッフの作業環境に優しいものと考え、ミストによる粉塵防止システムを採用したり、施設の扉の出入り口にもビニールシート、シャッターに加えエアーカーテンを設置して完全屋内処理を行っています。また低振動、低騒音の最新型破碎機を採用し、施設の壁には防音壁を使うなど環境に配慮しています。

こうした環境の中、この処理施設での処理能力にはまだまだ余力があるので、今後さらなる可能性を發揮していきたいと考えています。」と市場への抱負を語られました。

最後に、長崎専務は「今年の夏には、(一社)愛知県産業廃棄物協会の好評企画「夏休み親子で環境・資源リサイクル体験ツアー」で18家族40名の親子が見学にみえました。子どもたちは、作業工程などを聞いたり、出来上がった加工品を見て目を輝かせていました。まだまだ歴史の浅い業界ではありますが、こうして子どもたちに環境や資源循環に興味を持ってもらえたことが印象的でした。」と目を細めました。



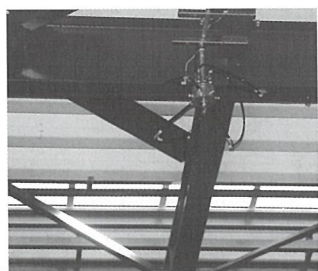
圧縮六面梱包器

破碎後、1包500kgの圧縮六面梱包として出荷します。圧縮六面梱包は安定していて荷崩れがありませんから、保管中に荷崩れして飛散する二次公害などの心配がありません。」と工場長の河澄隆之氏から作業について説明を受けました。



工場長の河澄氏

また、このリサイクル処理施設の企画段階から携わる営業部課長 藤下喜之氏にこの施設の特徴を伺いました。「企画の段階で考えたのは、工程がシンプルでリサイクル効率の良いものでありながら、



粉塵防止用のミスト粉霧ノズル



フラフ化廃棄プラスチック燃料



協会主催の夏休み親子で環境・資源リサイクル体験ツアーで見学